



「今後、伝承者の減少は避けられないため、残したい演目を各地区から選定し、村独自で後継者を確保(雇用)し、各集落から伝承いただき、"東通村の能舞"として保存活動を行えばと考えます」

子ども会会長の川原田雅志さんに現在と今後の活動について聞きました。

「現在、砂子又子ども会には、女子10名、男子4名の計14名で活動しています。婦人会、郷友会の方々が、子ども会の先生として稽古をしてくれますので、出来る限りのことを吸収出来る様な機会を作ってあげ



1/14 砂子又地区に伝わる小正月の伝統行事『苗どり』

たいと考えています。見る・触れる・やってみることを大事にしていきたいです」

子どもたちに伝えたいことはありますか？

「コロナ禍で活動が停止してしまい、ほとんどゼロからのスタートでした。短い期間でしたが、真剣に取り組み、正月の舞台に立てた事は、とても立派で誇りに思います。親御さんも、地域のみなさんも晴れ姿を見るのが出来て、大変喜んでいました。これから、みんなで出来る事を続けていきたいと思います！」

いま全国的にも、人口減少や若者の流出により、伝統芸能、産業などの「担い手」不足が問題となっており、東通村もその例外ではありません。

何においても、"次世代への伝承"が簡単ではないことは言うまでもありません。

しかし、今まで築き上げてきた伝統や文化、知識は「つなげたい」という思いが、人と人を繋ぐのではないのでしょうか。

人の「心」を繋ぐもの。それは、人を想う「心」。それは、地域を愛する「心」。それは、未来を願う「心」。その「心」と「心」がひとつに重なったとき、新たな変化が起るのかもしれない。